

令和6年度 野生鳥獣による農作物被害の状況について

1 農作物被害額

令和6年度 86,456千円（速報値）
（前年度比111%、8,817千円増）

2 獣種別農作物被害額の概要

ニホンジカ、イノシシ、ニホンザルによる被害額が全体の94%を占めた。

- （1）ニホンジカ：34,608千円（前年度比81%、8,124千円減）
果樹（ミカン、スダチ、ユズ等）への被害額が66%を占めた。
- （2）イノシシ：27,578千円（前年度比191%、13,156千円増）
果樹（スダチ、ミカン、ナシ等）や水稲への被害額が74%を占めた。
- （3）ニホンザル：18,678千円（前年度比130%、4,299千円増）
野菜（トマト、タマネギ等）や果樹（ユズ、キウイフルーツ、スダチ等）への被害額が86%を占めた。
- （4）その他：5,592千円（前年度比92%、515千円減）
 - ・ 鳥類（カモ、カラス等）による被害額（レンコン、カンショ等）が74%を占めた。
 - ・ 中型獣類（ハクビシン、アナグマ等）による被害額（キュウリ、ナス等）が26%を占めた。

3 獣種別の捕獲頭数（速報値）

ニホンジカ	18,692頭	（前年度比 110%）	・・・過去最多
イノシシ	7,330頭	（前年度比 233%）	
ニホンザル	2,186頭	（前年度比 236%）	・・・過去最多
合計	28,208頭	（前年度比 134%）	・・・過去最多

4 今後の対策

- （1）防護対策
 - ・ 侵入防止柵の設置や追い払い、放任果樹の除去など集落ぐるみによる防護対策への支援
- （2）捕獲対策
 - ・ 市町村や地域協議会、猟友会と連携した捕獲の推進
 - ・ サルの位置情報をリアルタイムで共有できる「最新式GPS首輪」による効果的な捕獲手法の検証
- （3）担い手対策
 - ・ 林業従事者や森林所有者等を対象に、わなの見回り負担を軽減するICTを活用した捕獲技術講習会や現地実習による、新たな捕獲の担い手の育成